

第3学年「生き方」指導案

1 単元名 同和問題と自分

2 単元の目標

- 【分かる】同和問題（部落差別）がどのようなものであるかが分かり、これまでに差別に苦しみながらも対峙してきた人たちがいることを知るとともに、今なお差別と立ち向かっている人がいることが分かる。
- 【深める】仲間との語らいを通して、自分の中にも差別に向き合っていない心の弱さがあることに気づき、自分自身を深く見つめ直すことができる。
- 【育む】これまでの様々な人権問題を振り返ることを通して、差別や偏見にとらわれず、よりよい生活をしていくために自分ができることを真剣に考え、自他を大切にすることを育むことができる。

3 単元指導計画

時	過程	ねらい	学習活動	・指導のポイント ○準備物	
1・2	分かる (評価の観点… 知識・技能)	これまでの差別の歴史を知ることを通して、同和問題（部落差別）がどんなものであるかを知り、これまで差別に苦しみながらも対峙してきた人たちがいることが分かる。	<u>課題：差別の歴史を知ろう</u> ①差別について考える。【全体】 ②同和問題について知る。【全体】 ③差別の歴史を知る。【全体】 ④映像資料「その時 歴史が動いた」を視聴する。【全体】 ⑤感想を書く。【個人】	・感想用紙を回収後、生徒の意識を机列表や名簿にまとめ、生徒の心の変容を捉える。 ・本時は全体指導がメインとなる。その中で、①～③では30分程度の時間を設け、同和問題（部落差別）や解放令、全国水平社などの意味を押さえる。 ・④では、冒頭の15分20秒までを視聴し、残りは第2時に視聴する。 ○映像資料「その時 歴史が動いた」、ワークシート	
3・4		同和問題（部落差別）を調べることを通して、過去から現在にかけて、どんなことが起きているのかが分かる。	<u>課題：同和問題（部落差別）について調べよう</u> ①テーマを設定する。【個人】 ②動機を明確化する。【個人】 ③調査する。【個人】 ④調査して感じたことや考えたことを書く。【個人】 ⑤視点に基づいた振り返りを行う。【個人】	・3つのテーマの中から1つを選択させる。 テーマ・同和問題が起きている原因 ・同和問題の実態（過去） ・同和問題の実態（現在） 視点・正しい情報かどうかの確かめ ・立場(被害者、加害者)の変更 ・他教科の授業との関連付け	
5		同和問題（部落差別）の現状から、今なお差別と立ち向かっている人がいることが分かる。	<u>課題：同和問題（部落差別）について考えよう</u> ①前時までを振り返り、今なおこうした差別はあるのかどうかを考える。【全体】 ②差別の現状を知る。【全体】 ③資料「BaribaraxBURAKU」を視聴し、現在でも差別と立ち向かっている人がいることを確認する。【全体】 ④本時の感想を書く。【個人】	・①では、同和問題（部落差別）に特化して考える。 ・③では、法務省の資料を提示し、その中で今も差別に苦しんでいる人がいることを押さえる。特に結婚問題で切実な思いをしている人たちがいることを説明し、第7時からの内容につなげられるようにする。 ○映像資料「BaribaraxBURAKU」、ワークシート（歴史年表など）	
6		同和問題の現状から、今なお差別と立ち向かっている人がいることが分かる。	<u>課題：同和問題（部落差別）について考えよう</u> ①映像資料「Abema news/部落差別」を視聴し、現在でも差別と立ち向かっている人がいることを確認する。【全体】 ②本時の感想を書く。【個人】	○映像資料「Abema news/部落差別」、ワークシート	
7		深める (評価の観点… 思考・判断・表現)	結婚や同和問題で揺れ動く主人公の気持ちを考えることができる。	<u>課題：真実の気持ちを考えよう</u> ①映像資料「あなたに伝えたいこと」を視聴する。【全体】 ②感想を書く。【個人】	○映像資料「あなたに伝えたいこと」、ワークシート ・①映像資料は、冒頭から21分47秒まで視聴する。
8			本時		
9	伝えられた時にどうするかを考えることを通して、自分は差別に対して、どう向きあっているのかを考え、自分を深く見つめ直すことができる。		<u>課題：自分もし伝えられたらどうするかを考えよう</u> ①自分はどうか、理由を明確にして書く。【個人】 ②書いた内容を交流し、それぞれの方途や理由を整理する。【グループ】 ③ホワイトボードを黒板に貼り、交流する。【全体】 ④差別に対して、自分はどのように向き合っているのかを考える。【全体】 ⑤本時の感想を書く。【個人】	・①と②では、「私は全く気にしない」という意見が多数になることも考えられる。そうなった場合は、机間指導をする中で、「相手に伝えた理由を聞いてみたらどうなるだろう。」と問いかけ、そこに差別が介在するかどうかを考えることができるようにする。そして、何気ない日常の中にも潜在的に存在する差別について考えることができるようにする。 ・④では、問題を問題として知ることの大切さや差別に対するアンテナを高くすることの有用性などを確認する。 ○ワークシート、ホワイトボード	
10	育む (評価の観点… 主体的な学びを取り組む態度)	これまでの学習を振り返り、偏見にとらわれず、強い意志をもちたいという思いをもつと共に、自他を大切にすることを育むことができる。	<u>課題：学習を振り返り、自分の思いや考えを書こう</u> ①作文用紙に自分の思いを書く。【個人】	・正論を書くためのものではなく、自分を見つめた結果、どんな考えに至ったのかなどを書けるようにする。 ○作文用紙	
11		自分の思いを強くもち、相手を意識して、分かりやすく発表することができる。	<u>課題：自分の思いや考えを伝えよう</u> ①発表会を行う。【グループ】 ②抽出生徒の発表を聞く。【全体】 ③学習のまとめをする。【全体】 ④感想用紙を切り取り、相手に渡す。【グループ】	・発表後には、感想用紙に感想や意見を書かせる。 ・心の変容があったり、同和問題に対する強い思いをもっていたりする生徒を事前に抽出しておき、その思いを学級全体で共有できるようにする。 ○感想用紙等	

4 本時のねらい

真央が最後にカミングアウトをするか、しないかを考える活動を通して、正しくないと思っけていても多数の意見や噂に同調し、偏った見方、決めつけをしてしまう意識が社会の中にあることに気付くことができる。

5 本時の展開 (8 / 11)

過程	学習活動 ・予想される生徒の反応	留意点 ・指導のポイント ◆学びを深める技 ★葛藤を生み出す指導 ●語らいを生み出す指導
導入	<p>①前時に視聴した「あなたに伝えたいこと」の登場人物や問題の背景を確認する。【全体】</p> <p>◆真央 ・母の実家が同和地区 ・幸子(母)から結婚を反対されている ・恋人の拓海に事実をカミングアウトするか悩んでいる</p> <p>◆拓海 ・両親は同和地区に偏見や差別がある ・結婚相手の身元調査をする</p> <p>◆幸子 ・同和地区出身 ・差別されてきた</p>	<p>・①では、前時を振り返り、主人公の真央が置かれている状況や問題の背景を確認する。「真央は同和地区のリストを見た時、どんな様子だっただろう。」「友達に同和地区ではないと報告していたよね。」と問いかけ、真央の中にある同和地区への差別意識を押さえておく。</p> <p>★葛藤を生み出す指導 「真央は最後にカミングアウトをするか、しないか、どちらだろう。」と問うことで、課題を設定する。真央の気持ちを考えることは自分の気持ちを表出させることにもなるため、葛藤が生み出されると考える。</p>
<p>課題 真央は最後にカミングアウトをするか、しないかを考えよう</p>		
展開	<p>②同和地区と関わりがあることを恋人にカミングアウトした場合、カミングアウトしなかった場合に起こる事象をワークシートに記入し、全体交流する。【個人】⇒【全体】</p> <p>③真央は、最後にカミングアウトをするかしないか、その理由をワークシートに記入する。【個人】</p> <p>◆カミングアウトする理由 ・ありのままを受け入れてほしいから。 ・カミングアウトしたほうが楽だから。 ・言わないとずっと不安や罪悪感が残るから。 ・辛いことも一緒に乗り越えていきたいから。 ・隠し通せないし、隠して生きていくのは辛いから。 ・彼氏の拓海にはカミングアウトする。</p> <p>◆カミングアウトしない理由 ・婚約破棄をされたくないから。 ・差別されたくないから。 ・変な目で見られたくないから。</p> <p>④真央の考えの現在地を黒板に貼ったネームプレートで表し、全体で交流する。【グループ】⇒【全体】</p> <p>⑤真央が悩む原因を明らかにする。【全体】 ・頭では正しくないと思っけていても多数の意見に同調してしまう意識がある。 ・何が正しいかわからないときに、他者や集団の意見に流されてしまう。 ・噂を信じて、偏った見方をしてしまう。</p>	<p>・③では、机間指導を行いながら、自分の心と向き合おうとしている生徒の意見を把握し、意図的指名につなげる。</p> <p>・④では、カミングアウトする理由の「ありのままを受け入れてほしいから。」という意見に対して、「お母さんがずっと隠し続けていたのはなぜだろう。」「以前視聴した動画で、同和地区出身だと告白したら、相手の親から脅迫されたよね。」と問うことで、真央が抱いた不安感や恐怖感に気付かせる。また、カミングアウトしない理由の「差別されたくないから。」「変な目で見られたくないから。」という意見に対して、「誰から差別されるのだろうか。」「周りとは誰だろう。」と具体を問うことで、周囲の私たちを含む社会が不安感や恐怖感を増大させていることに気付かせる。片方の意見に偏っていた場合は、「～した結果、良い未来が見えるだろうか。」と問いかけたり、事象を提示したりすることで判断を吟味させる。</p> <p>★葛藤を深める指導 意図的な指名、切り返し発問などから、想像力を膨らませ、真央の気持ちに寄り添いながら不安要素を表出させる。そして、理想と現実の対比につなげる。</p> <p>●語らいを生み出す指導 自分の思いを整理させ、意図的指名を行う。仲間の考えを自分の考えと比較しながら聞かせたり、周囲の仲間と話させたりすることを通して、語らいを生み出す。</p> <p>・⑤では、「カミングアウトする、しないにしても、真央はずっとどんな気持ちでいるのだろうか。」と発問する。そして、自身が同和地区に関係があることを知ってから苦しんでいることを確認し、「なぜ真央はこんなに苦しい気持ちなのだろうか。」と発問し、原因を全体で交流させる。</p> <p>・最後に、「結婚はみんなから祝福されてするものだよね。でも、これほどまでに真央が悩み、苦しい思いをするのはどうなのだろう。」「誰が悪いのだろうか。」と全体に問いかけ、社会の中に差別意識があることに気付かせ、問題意識を高める。また、「最初の真央はどうだっただろう。喜んでいたよね。」「同和地区に関係があることを知った真央は最初と比べてどうなっただろう。」と問いかけ、社会の差別意識によって真央のように苦しんでいる人がいることに気付かせる。</p>
終末	<p>⑥本時の感想を書く。【個人】</p> <p>このような選択を強いられるのは、イメージや噂だけで人を判断し、差別をする意識があることが原因だと気付いた。自分も噂を信じてしまい、その人に勝手なイメージをもってしまっている。それは、自分だけでなく、社会の中にも差別意識があるから、恐怖や不安からカミングアウトができない人がいることが分かった。それはおかしいことだし、許されないことだと思う。これからは、すぐに同調せず、自分で判断して生活していきたい。</p>	<p>・⑥では、授業を通して気付いたことや考えが変わったことを感想に書かせる。</p> <p>評価規準【思考・判断・表現】 正しくないと思っけていても多数の意見や噂に同調し、偏った見方、決めつけをしてしまう意識が社会の中にあることに気付いている。</p>